



## News Release

平成18年5月23日  
日立住友重機械建機クレーン株式会社

### 2006年（平成18年）3月期 決算の概要

#### 1. 営業の状況

当年度のクローラクレーン市場は顕著な拡大傾向にあり、国内の新車需要は着実に増加し、前年に引続き前期実績を上回りました。海外市場においては、主要市場である北米の急速な需要回復に加えて、豊富なオイルマネーを背景に中東市場が急激に拡大しました。その他の中国やアジア市場も堅調に推移し、海外需要が大きく増加する結果となりました。

このような情勢の中で、当社は新機種を継続的に市場に投入するとともに、関係会社や代理店との連携を軸に各地域ごとに積極的な販売戦略を展開しました。また主要工場である名古屋工場の生産力強化を図るため生産機種の集約や増産体制の整備を進めました。さらに平成18年2月に100%子会社のHSCクレーンサービス株式会社を吸収合併し、部品サービス事業の強化による安定収益体制の構築を進めました。

こうした積極的な事業活動の結果、当年度の営業成績は、連結では売上高 24,509百万円、経常利益 2,238百万円、当期純利益 1,317百万円、単体では売上高 22,713百万円、経常利益 1,883百万円、当期純利益 1,094百万円となり前年を大きく上回りました。その結果、経常利益率は連結で9.1%、単体で8.3%を達成し量だけでなく質も大幅に改善いたしました。

国内市場については、当年度は首都圏及び中部地区を中心に増加傾向にある民需工事に對し、機械の稼働台数不足が顕在化し、加えて機械の老朽化や排ガス規制などに対応するべく顧客の買替え意欲が活発化しつつあり、クローラクレーンの新車需要は前年度比11%の増加となりました。その中で当社は着実に販売台数を伸ばし、クローラクレーンの国内シェアは39%と継続してトップシェアとなりました。また機種構成においても、前年までは吊り性能70tクラスが主流でしたが、当年度は120t以上のクラスへと大型化する傾向にありました。その結果、当年度の国内売上高は10,255百万円となりました。

海外市場については、北米では堅調な住宅投資や石油掘削工事の拡大、災害復興特需などが相乗しクレーン市場は前年を大きく上回りました。当社は北米の関係会社であるLink-Belt Construction Equipment Company社（以下、Link-Belt社）と連携して拡販を図り、北米向けのクローラクレーンの売上台数は前年度を大きく上回りました。

一方、急拡大している中東と欧州地域においても関係会社のHitachi Construction Machinery (Europe) N.V.社（以下、HCME社）と共同し売上の拡大に努め、中国では現地子会社の日立住友重機械建機起重機（上海）有限公司（以下、HSC上海）を軸に現地生産・販売の体制をつくりました。またアジア市場でも地域代理店と連携し売上台数を伸ばしました。こうした各地域での事業を推進した結果、当社の海外向け売上台数は大きく増加し、当年度の海外売上高は12,458百万円となりました。

当社は急激な需要の増加に対応するため、名古屋工場の生産体制を強化し、大幅な増産に取り組みます。また海外需要の大幅な増加に対応して、サービスも含めたグローバル体制を強化し、クレーン事業のさらなる飛躍を目指します。

- 1) 名古屋工場の生産体制を強化します。
- 2) 地域別エリア戦略を遂行するとともに、新市場の開拓に着手します。
- 3) 機種開発のスピードアップと開発品質の向上を図ります。
- 4) 営業・サービスの一体化を進め、部品サービス事業を強化します。
- 5) キャッシュフローを重視した事業運営を進めます。





## News Release

平成18年5月23日  
日立住友重機械建機クレーン株式会社

### 2. 経営の基本方針

#### ▽「開発・製造・販売・サービス」一貫体制の構築（黎明期・基礎固め）

当社は2002年7月に設立され、「HITACHI SUMITOMO」のワンブランド・ワンチャンネルにて新しい企業文化をつくり、世界No. 1の建機クレーン会社をめざしてまいりました。

その第一歩は開発部門と営業部門のみの船出ではありましたが、2004年10月には、生産委託をしていました住友重機械建機クレーン・名古屋工場を吸収し「製造本部名古屋工場」を新設。2005年9月より日立建機・土浦工場で作成中の基幹部品と生産委託機種を名古屋工場へ移管集約することで、生産体制の強化を図ってまいりました。2006年2月には、HSCクレーンサービスを吸収し、名実ともに建機クレーンの「開発・製造・販売・サービス」一貫体制を構築して、事業基盤の基礎固めを進めてまいりました。

#### ▽「グローバルに事業を拡大」、「高効率経営」（建機クレーン事業のさらなる飛躍へ）

国内および海外市場の拡大にとともに、「生産量の増加」と「海外におけるサービス対応の充実」が当面の課題となります。

グローバルな市場に対してはグローバルな体制で臨む必要があります。北米においてはLink-Belt社、欧州ではHCME社、中国ではHSC上海と深セン国際建築機械有限公司（以下、SIC社）が海外拠点として挙げられます。

Link-Belt社とは長年培ってきたパートナーとしての良好な関係をベースに、建機クレーン事業が展開されており、2005年度の売上は同社との共同開発機である218HSL（110ust）の市場投入が貢献しました。同社の北米におけるプレゼンスは高く、常に40%前後のクローラクレーンシェアを獲得し、マーケットリーダーとしての地位を確立しております。直近では日本の港湾荷役市場の要求に対応すべく、ラチスブーム式トラッククレーンの新機種投入を計画しております。特に本機は、両者の技術の粋を集めたハイブリッドな機械（当社のクローラクレーン技術と、Link-Belt社のトラッククレーン技術の融合）であり我々独自の協業スタイルです。

HCME社も欧州におけるベストパートナーであり、販売促進活動による中東市場での大量受注をはじめ、先日パリで開催されたIntermat展で新製品発表（SCX800HD-2/80t吊ヘビーデューティ機、SCX2800-2/275t吊ラフティング海外仕様機）等により「HITACHI SUMITOMO」のプレゼンスの向上を図っております。

中国においては、現地生産・販売・サービスの体制を構築し、さらなる体制の強化に努めています。

これらの関係会社では、当社との間で生産分業を取り入れ”最適地で最適部品の生産”をおこないグローバルな生産性の向上に努めてまいります。

このように当社は他に類を見ない協業のスタイルを各海外拠点と共有しており、「開発面・製造面・販売面・サービス面」におけるさらなる協業の深化を図ってまいります。

我々の事業基盤を確固なものに作り上げていくための中核となる要素は、「モジュール設計」による開発効率の向上、海外拠点との協業の深化による「グローバル展開」、キャッシュフローを重視した「企業価値（株主価値）の増大」、個々の課題に対する「迅速な意思決定」ができる組織であります。これらの要素を磨き上げることで、さらなる「高効率経営」をめざします。

今後、当社は”建機クレーン事業のさらなる飛躍へ”向け、2007年度より始まる「中期4ヵ年計画」の策定に入ります。

## 平成18年3月期 決算の概要

### 1. 当期の業績（連結）（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

#### (1) 経営成績

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	対前期 増減率		対前期 増減率		対前期 増減率		対前期 増減率	
		百万円 %		百万円 %		百万円 %		百万円 %
当期		24,509 (18.1)		2,279 (273.6)		2,238 (295.4)		1,317 (362.1)
前期		20,753		610		566		285

### 2. 当期の業績（単体）（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

#### (1) 経営成績

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	対前期 増減率		対前期 増減率		対前期 増減率		対前期 増減率		円	銭
		百万円 %		百万円 %		百万円 %		百万円 %		
当期		22,713 (20.0)		1,924 (355.9)		1,883 (406.2)		1,094 (485.0)	13,682	70
前期		18,920		422		372		187	3,741	57

#### (2) 財政状態

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり 株主資本	
	百万円	百万円	%	円	銭
当期	14,538	5,779	39.8	72,237	97
前期	10,861	4,361	40.2	54,517	19

#### (3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 の期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
当期	1,042	△299	△350	1,546
前期	△3,557	31	3,217	1,153

### 3. 平成19年3月期の業績予想（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
(連結) 通期	百万円 31,000	百万円 2,400	百万円 2,400	百万円 1,400
(単体) 通期	30,500	2,300	2,300	1,300



#### 4. 貸借対照表（単体）

（単位：百万円）

	当 期 （ H18. 3. 31現在 ）		前 期 （ H17. 3. 31現在 ）		増 減
		%		%	
〈資産の部〉					
(流動資産)	(13,453)	92.5	(10,181)	93.7	(3,272)
現金及び預金	1,546		1,153		393
受取手形及び売掛金	7,540		5,363		2,177
棚卸資産	3,630		3,097		533
その他の流動資産	733		563		170
(固定資産)	(1,084)	7.5	(680)	6.3	(404)
有形固定資産	653		209		444
無形固定資産	157		37		120
投資その他の資産	274		432		△158
資産合計	14,538	100.0	10,861	100.0	3,677

（単位：百万円）

	当 期 （ H18. 3. 31現在 ）		前 期 （ H17. 3. 31現在 ）		増 減
		%		%	
〈負債の部〉					
(流動負債)	(8,527)	58.7	(6,483)	59.7	(2,044)
支払手形及び買掛金	6,814		5,500		1,314
その他の流動負債	1,709		978		731
(固定負債)	(231)	1.6	(16)	0.1	(215)
その他の固定負債	231		16		215
負債合計	8,759	60.2	6,499	59.8	2,260
〈資本の部〉					
資本金	4,000	27.5	4,000	36.8	0
利益剰余金	1,779	12.2	361	3.3	1,418
資本合計	5,779	39.8	4,361	40.2	1,418
負債及び資本合計	14,538	100.0	10,861	100.0	3,677

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 5. 損益計算書（単体）

（単位：百万円）

	当 期		前 期		増 減	
	H17.4.1から H18.3.31まで		H16.4.1から H17.3.31まで			
		%		%		%
〈経常損益の部〉						
（営業損益）						
売上高	22,713	100.0	18,920	100.0	3,793	20.0
売上原価	18,182	80.1	16,486	87.1	1,696	
販売費及び一般管理費	2,606	11.5	2,011	10.6	595	
計	20,788	91.5	18,497	97.8	2,291	
営業利益	1,924	8.5	422	2.2	1,502	355.9
（営業外損益）						
営業外収益						
受取利息及び配当金	0	0.0	7	0.0	△7	
雑収入	1	0.0	0	0.0	1	
計	2	0.0	7	0.0	△5	
営業外費用						
為替差損	0	0.0	34	0.2	△34	
雑損失	43	0.2	22	0.1	21	
計	43	0.2	57	0.3	△14	
經常利益	1,883	8.3	372	2.0	1,511	406.2
〈特別損益の部〉						
特別利益	-	-	-	-	-	
特別損失	-	-	-	-	-	
税引前当期利益	1,883	8.3	372	2.0	1,511	406.2
法人税、住民税及び事業税	935	4.1	232	1.2	703	
法人税等調整額	△146	△0.6	△47	△0.2	△99	
当期純利益	1,094	4.8	187	1.0	907	485.0
前期繰越利益	361	1.6	174	0.9	187	
合併未処分利益受入額	311	1.4	-	-	311	
当期未処分利益	1,767	7.8	361	1.9	1,406	389.5

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 6. キャッシュ・フロー計算書（単体）

（単位：百万円）

	当 期 H17.4.1から H18.3.31まで	前 期 H16.4.1から H17.3.31まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,042	Δ3,557
投資活動によるキャッシュ・フロー	Δ299	31
（フリーキャッシュ・フロー）	743	Δ3,525
財務活動によるキャッシュ・フロー	Δ350	3,217
現金及び現金同等物の増減額	392	Δ308
現金及び現金同等物の期首残高	1,153	1,462
現金及び現金同等物の期末残高	1,546	1,153

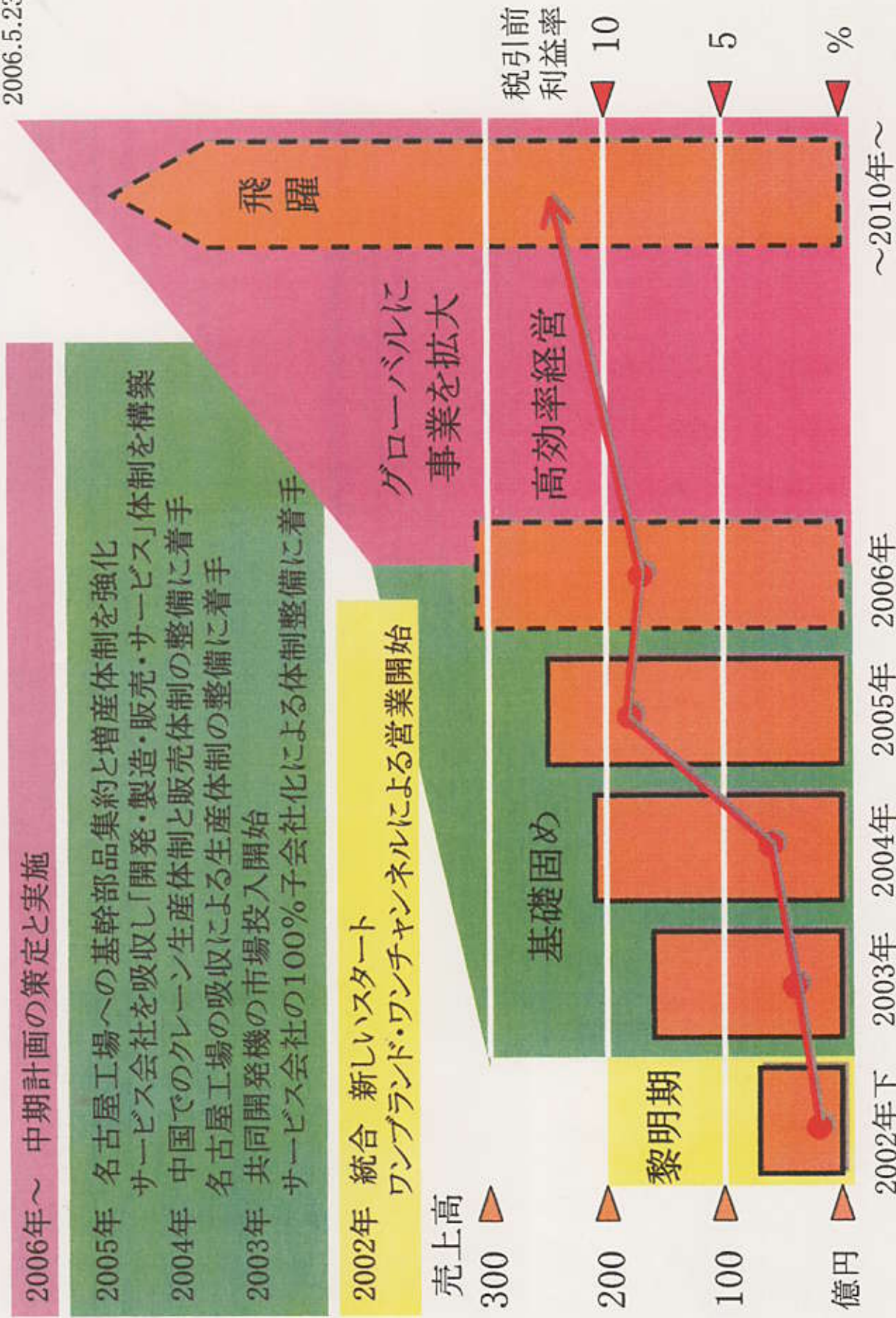
（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



# 「HITACHI SUMITOMO」ワンブランド・ワンチャンネルの歩み



2006.5.23



「HITACHI SUMITOMO」 建機クレーン事業のさらなる飛躍へ



2006.5.23

